

ポスター①

糖尿病患者の低血糖の現状と対策

若松町店
○砂田 洋信

【目的】

厚生労働省によると「糖尿病が強く疑われる者」は約 1000 万人と推計され、平成 9 年以降増加している。この事から今後も糖尿病患者は増加していくと考えられる。服薬サポートを行っている中で低血糖の症状と対策について把握していない患者が多かった。そこで患者の低血糖の対策について今後、薬局で何が出来るか調査した。

【方法】

若松町店の糖尿病患者を対象に低血糖の現状と患者自身がどの様な対策をしているか服薬サポートの中で調査した。調査対象は 8 月 1 日から 9 月 24 日までの糖尿病患者とした。

【結果】

処方箋総計数に対して糖尿病患者の処方箋枚数は約 1 割となった。服薬サポートを行った 50 人の内、直近で低血糖を起こしていない患者が 37 人だった。その内、低血糖対策としてブドウ糖を所持している者が 27 人、飴、砂糖を所持している者が 7 人、コーヒー等の飲料水が 3 人と全員対策の準備はしていた。しかし、直近で低血糖を起こしていない患者でどの様な時に低血糖を起こしやすいかを把握出来ていなかった。

【考察】

直近で低血糖を起こしていない患者は低血糖の対策の準備は出来ているが、服用のタイミングが把握出来ていない為、血糖自己測定器の購入を勧めて日頃から血糖値を測定する機会を作り、低血糖になりやすい時間や原因を把握する必要がある。また、低血糖を起こしていない患者には服薬サポートの際に、どの様な時に低血糖を起こしやすいかを情報提供等をして理解度を確認する必要がある。低血糖にはどの様な症状があるかイラスト付きのポスターを薬局内に掲示すると良いと思われる。また、低血糖の自覚症状と対策について説明し患者自身の意識を高めていく必要があると考えられる。次に GI 値の低い食品などの栄養指導を管理栄養士と連携していくと良いと考えられる。